

檜の木だより

2020 4/1
第99号

ひとりひとりひかる

きぼう

発行：檜の木福祉会（法人本部）
かしの木の会

一宮市富田字砂原 2147

Tel/Fax 0586-63-2111 / 61-1200

檜の木福祉会 ホームページ

<http://www.kasinoki.jp/>

今年度入職された期待の新人さんです。

新年度ご挨拶

近年、人口減少社会の進展にともない、今までかつて経験したことのない社会現象が起きつつあります。超高齢化社会、労働力不足、最低賃金の増額、福祉医療予算の増大、年金受給額の減額、外国人入国管理の緩和など様々な課題が報道されています。どれをとっても難解な課題であり、早急に解決を期待することはできないと思われま

す。このような社会情勢のなか、檜の木福祉会にとっても例外なくその影響がじわじわと押し寄せています。

昨年度は、財政基盤の強化と支援員の確保を重点に法人運営に取り組んできました。十分とは言えませんが、一定の成果を得ることができました。

本年度は、さらなる成果を求め継続的な努力を積み重ねてまいります。関係各位のご支援、ご協力を切にお願いいたします。

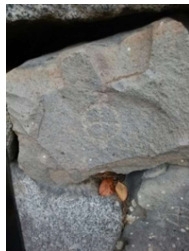
檜の木福祉会
理事長 北川登

『かしの木の会 親睦会』に参加して

令和元年 11月 28日(木)

法人本部の森と申します。この法人にお世話になって4年目となり、周りの環境にも随分慣れてきたように感じています。かしの木の会の親睦会にも毎年参加させていただき、昨年度も名古屋城本丸御殿の見学及びその後の名古屋プリンスホテルでの天空ランチビュッフェに参加させていただきました。今回はその時の感動を皆さんにお伝えしようと思います。

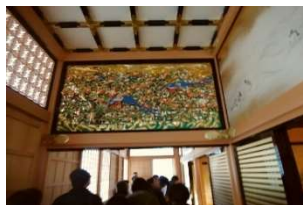
まず、向かったのが表二の門、名古屋城本丸御殿への入口となります。名古屋城には幾度となく足を運びましたが、今回、ボランティアガイド馬場さんのご案内で石垣に残る島津家の⊕や脇坂家の⊙など400年を経て、なお鮮明に残る刻印に初めて出会い悠久の時空に思いをはせました。



次は、今回の親睦会のメインの目的地である本丸御殿。平成29年10月に8年の歳月と150億円の予算をかけて完成した書院造の素晴らしい建物です。

まずは玄関、竹林に虎や豹が描かれた金地の障壁画の艶やかさに圧倒されます。そこから表書院、対面所、上洛殿と案内され、各部屋は格式や用途によって、天井や欄間、飾金具、障壁画などのつくりや意匠が大きく異なっており、ガイドさんの説明を受けるたびごとに足を止め、見入ることしきり、しばし現実を忘れ、リッチな気分浸たる一刻を過ごさせていただきました。この想いは、その後を訪れました名古屋プリンスホテルでの天空レストランへと続くのでした。

こんな楽しい会を企画していただきました幹事の皆様に感謝申し上げますとともに、次年度もまた、この夢の続きを楽しませていただけたらと期待しております。本当にありがとうございました。



法人本部事務局次長 森繁雄

『榿の木交流会』を終えて

昨年度の榿の木交流会は、1月18日に尾西グリーンプラザにおいて、多数の方が参加され盛大に開催されました。

交流会には、職員の皆さんが、普段とは全く違う恰好で受付に現れました。受付で「・・・だれ？」皆さん普段の恰好と違いすぎるのです。動きやすい普段の服装の印象が強く、スーツを着こなす姿があまりに新鮮で名前と顔が一致しない方も見えたましたが、スーツ姿の職員も素敵でした。



時間が進み、交流会が進行していくと今回のイベントの目玉であるピアノ演奏が始まりました。演奏をして下さった方は、「らちえっと」で演奏していただいたこともある方で、多くのリクエストにも全力で応えていただけました。

イベントの締めくくりはビンゴ大会です。カードを握りしめ、呼ばれる数字に一喜一憂していました。

榿の木福祉会が成長していくため、また、障害福祉施策の推進には、障害のある人の望む地域生活を送ることができるように、障害のある人自身だけでなく、障害のある人を取り巻くすべての人の理解と協働が必要であります。

この交流会は、地元の方々と職員が一堂に会し、障害福祉について語らい、他事業所との連携のためコミュニケーションを図ってみえました。このような職員同士の触れ合いが、事業所間の溝を埋め、榿の木福祉会がますます発展していく足掛かりになればと思います。

この交流会の開催にあたり、運営、準備等をしていただいた方の労をねぎらうとともに、参加された方々の今後ますますのご多幸をお祈りします。

榿の木交流会ご苦勞様でした。

法人本部 栗田基弘

事業所コーナー

らでうす

「らでうす」は平成29年4月に出来た生活介護単独の事業所です。

午前中は作業的な活動として、自立課題や内職、農業関連の作業を行っています。

自立課題はケースに物を入れるなどのシンプルな取り組みを行うことで、皆さんの達成感や自己肯定感を高めてもらう事を目的に行っています。この取り組みがあって、内職や農業関連の作業への取り組みにつながっていきます。実際の様子として、自立課題や作業の進め方は皆それぞれ違いますが、一人ひとりの個性を活かして、取り組む事ができています。

午後は健康や機能維持に向けた取り組みや創作活動を行っています。具体的には、ジョイスOUNDの機械を使用して音楽に合わせての機能訓練や、体操、季節行事に合わせた創作活動や音楽活動など、利用者の方たちと職員と一緒に楽しく活動に参加しています。アクティブに動かれる方のグループと、静かな環境のなかで、コツコツと取り組まれるグループとの二つの部屋に分かれていて、利用者の方たちに合った過ごし方が出来るように環境調整を行っています。

これからも利用者の方たちと職員と一緒に楽しく過ごしていける「らでうす」にしていきたいと思っていますので、よろしくお願い致します。



らでうす 牛田 保子

「らでうす」での生産的な活動の取り組みの一つに農福連携の活動があります。

農家さんと連携して「ローゼル」の種取り作業や種の焙煎などを行っています。

皆さんは「ローゼル」をご存じでしょうか？ 広く知られている「ハイビスカスティー」は、実はこの「ローゼル」なのです！

「ローゼル」はあのクレオパトラが飲んでいたといわれるほど、古くから栽培されてきました。「ローゼル」には、主にポリフェノール・クエン酸・カリウム・ビタミンCなどの成分が含まれています。むくみの改善や老化防止・美肌効果など女性に嬉しい効能がいっぱいです。

またカフェインがほとんど含まれていないので、年齢を問わず飲んでいただくことが出来ます。

「らでうす」では「かしの木の里」の畑をお借りして利用者さんと一緒に栽培にも力を入れています。農作業は利用者さんにとって、目に見えない効果をもたらすと私は感じています。土をいじ



る事や太陽の光を浴びる事、植物の成長を感じることは脳内物質のセロトニンと大きく関係することが証明されています。春に種まきをし、夏に草取りに精を出し、秋には待ちに待った収穫です。

「らでうす」では皆さんと一緒に育てたローゼルの乾燥しローゼルティを生産しています、程よい酸味と鮮やかな色で大変好評を得ています。福祉マルシェ i・愛・逢マーケットや「らでうす」内でも販売しております。

お近くにお越しの際は是非「らでうす」にお立ち寄りください。



らでうす 小笠原 政江

施設コーナー

檜の木作業所

檜の木作業所で毎年行っている企画のひとつに秋の日帰り旅行があります。

昨年度は初めて生活介護の利用者さんと、就労継続 B 型の利用者さんの行き先を分けるという取り組みを行いました。各サービスの利用者さんの希望する行き先をそれぞれ設定することによって、多くの利用者さんに満足してもらったのが狙いです。

生活介護の利用者さんの行き先は日本モンキーセンターに決めました。

日本モンキーセンターでは特に「KIDSZOO」の施設が盛り上がりました。ヤギ、カメ、モルモットとのふれあい体験を施設の職員の説明を聞きながら行いました。利用者さんはそれぞれ異なる方法で楽しさを表現していました。

おじさんが叫んでいるような鳴き声のサルがいる珍しい場所もありました。ガイドさんの説明を聞いた利用者さんが、興味津々な様子でサルを見つめていました。

就労継続 B 型の利用者さんの行き先は愛知牧場に決めました。

愛知牧場では昼食にバーベキューを行いました。積極的な利用者さんが準備で道具を運んだり、火起こし用の炭をきれいに積み上げるなどの活躍をしていました。肉が焼けて職員が取り分けると、皆さん美味しそうに食べていました。

アイスクリームづくり体験では、施設の指導員の方の指示を一生懸命聞いて牛乳をアイスクリームに加工していました。牛乳が入った容器を一生懸命に転がして、それがアイスクリームに変化していくのを見て利用者さんは楽しんでいました。

行き先を2つに増やすことで、今までは「一部の利用者さんは楽しめそうだけど、この人は参加できないよね。」と諦めていた体験を選択肢に混ぜることができるようになりました。来年以降も行った人が楽しめる旅行の行程を考えていきます。

利用者さんには活発な方やおとなしい方、年配の方、若い方といった多くの特性を抱えた方がいます。作業所での日々の生活では決まった時間に全員が均一の行動が求められることも多いですが、職員の工夫によってそれぞれの利用者さんの好みに合った生

活を少しでも送れるようにしていきたいと考えています。今回の旅行の件はその一例ですが、こういった取り組みでの改善が増えるように頑張っていきます。



檜の木作業所では、利用されているすべての方が、日課として何かの作業に取り組んでいます。

ゴムのバリを取ったり、糸に商品名のラベルを巻きつけたり、箱を組み立てたりといった様々な作業があります。その中で利用者さん各々に合った作業を提供することで、やりがいを感じてメリハリのある生活を実現できるようにしています。

また、自主製品としてクッキーを製造・販売しています。クッキーの味は8種類あります。(プレーン・クランベリー・抹茶・チョコ・ココア・ごま・アールグレイ・季節限定商品)

障害を持ちながらも楽しくクッキー作りができるよう日々職員が色々とアイデアを出し合い利用者さんと一緒にクッキー作りに励んでおります。利用者さんも多くの方に召し上がっていただけるのを楽しみにしています。



注文販売にも対応していますので、ご連絡お待ちしております。

檜の木作業所 渡邊善貴

施設コーナー

らちえっと音楽活動の成り立ち

社会的交流の場を提供し、感情表現の拡大、気分転換などを目的とし、平成26年4月25日に石原美恵さんのピアノコンサートで音楽活動がスタートしました。

1年目は利用者さんと一緒に太鼓やマラカス等の楽器作りから始まり、作った楽器で合唱したりしていました。2年目からは、様々な演者さんに来ていただき「安来節」「ハンドベル」「和太鼓」「フラダンス」「チンドン屋」「落語」「ブラスバンド演奏」「ジャグリング」など、利用者の方々やスタッフ、お客様も、普段の生活にないことを体感できる場となっています。

昨年の12月には、岐阜県・愛知県を中心に活動している『電動車椅子シンガー緒方駿介』さんに来ていただきました。



コンサート当日は、らちえっとの利用者さんと「ひまわりの約束」「青いベンチ」などサプライズでデュエットを行いました。

今までは、同じ演奏者さんや、スタッフの音楽友達に来てくださっていた音楽活動ですが、今では障がいをもった演奏者さんまで音楽活動に参加して下さるようになりました。

利用者さんやスタッフからは、

- ・みんなで盛り上がるのができて良かった。
- ・幅広い曲目でみんなが知っている曲が多かった。
- ・緒方さんが凄く盛り上げ上手だった。
- ・口ずさむ人や一緒に踊ったりしてみんなが楽しめた。

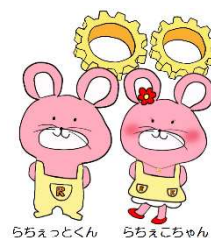
などといった感想をいただきました。



入職してから今まで音楽活動の担当として、先輩スタッフの伊達さんから教わりながら活動しています。去年は今までより、多く司会や出演者さんの接待など、今までにやったことのない役割を行うようになりました。実際に、初めて司会を行った時は、頭の中で考えていた言葉を忘れてしまうほどの緊張で、とても慌てました。今でも、音楽活動で司会をすると緊張します。けれど、地域の人や他の事業所の利用者さんたちも来てくださるようになりとても充実した音楽活動を行っています。

らちえっとの音楽活動は、らちえっとフロアにて毎月開催しております。時間は10時30分～11時15分頃まで。日にちについては演奏者さんの都合に合わせて開催しているので毎月違います。その都度チラシやポスターでお知らせしています。入場無料で、どなたでもご来場することが可能です。ぜひ、らちえっとの利用者さんと盛り上がり楽しみましょう。

そして、昨年度は「らちえっとくん」のテーマソングができました。とってもかわいらしく、口ずさみやすい曲です。音楽活動時のBGMとして流し、皆さんに聴いていただきたいと思っています。



らちえっと 原田咲良

インスタやってます



らちえっとくん
ツイッターもやってます



かしの木の会 バザー委員会のこれまで

今回、バザー委員会の活動について、あらためて紹介したいと思います。

まず、広報誌「きぼう」の過去の記事からおっ
てみることにしました。

最初は、靴下を提供していただいたの販売や、靴下製作の過程で出てくる材料で鍋敷きなどを作り販売していました。また、各ご家庭からの不用品を集め、値札をつけ販売するといったことも精力的に行っていました。その当時、かしの木の会の名称は「この子等の幸せを考える親の会」でした。

当初、子供たちのためにお金を集めていくといった目標でした。平成7年の広報誌「きぼう」の創刊号では、会の組織改編が進められ、「収益事業部」として組織化されました。目標として生活施設建設のための資金作りと具体的になっていきました。バザーで販売する品物も手芸品が多くなり、講師を呼んで学びバラエティーに富んだものが増えていきました。そして、それは目標の生活施設（かしの木の里）ができてからも続いていきました。この流れは、当時20代半ば若者だった私自身も「生活施設のために」という目標を掲げてからの会のすさまじいエネルギーは強烈に覚えています。

かしの木の里ができてからもバザーへの参加はとどまることを知らずといったことが、過去の記事からうかがえます。手芸品のクオリティーの高さや種類の多さが広報誌「きぼう」の写真からもうかがい知ることができます。また、かしの木の里の駐車場に不用品に値札をつけに来る会員さんたちのたくさんの車を見ると、イベントへの盛り上がりを感じることができました。

バザー委員会のことをもっと知るために、手芸制作をしているところにお邪魔する予定でしたが調整できず、長年バザー委員会でご活躍されている中桐さんにお話を伺うことができました。

中桐さんにはどのような雰囲気の手芸製作をし

ているかを聞きました。

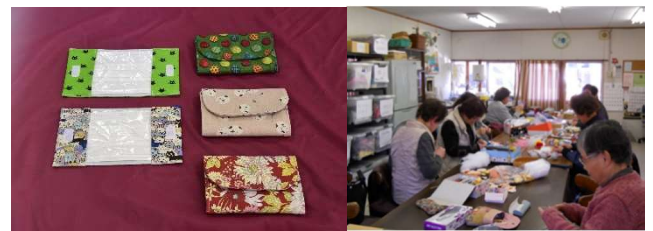
「和気あいあいとみんなでおしゃべりしながら制作することが楽しい。また、販売については、かしの木を広めることができること、お客さんとコミュニケーションをとることが楽しい。」

また、忙しい時期をお聞きしたところ9月からバザーが多く開催されるのでその時期が忙しいそうです。

バザー委員会の収益について「子供たちのために使いたい」とも言われていました。

今後の活動について「今の活動を続けていくためにどんどん手芸製作会に参加してほしい。毎月2回9:30~15:00まで『プレハブ希望』にて製作会をしているので毎回でなくても、短時間でもきてください。見学も歓迎します。」とのことでした

手芸製作の予定は年度初めにスケジュールが決まるそうです。



マスクケースとカードケースはよく売れています

今回バザー委員会の記事を書き、会員の皆さんの熱い思いが品物の一つ一つに込められていることを感じました。取材に応じてくださった中桐さんに感謝します。

そういえば、息子の幼少期のトレードマークはかしの木バザーで買ったピンクのセーターだったことを思い出しました。

広報委員 武田信之

お知らせコーナー

- 5月24日(日) 櫛の木運動会
場所：富田山グラウンド
 - 6月28日(日) かしの木音楽会
場所：尾西グリーンプラザ
- ※かしの木の会総会は延期となりました。期日は未定です。